

報 むすび 会

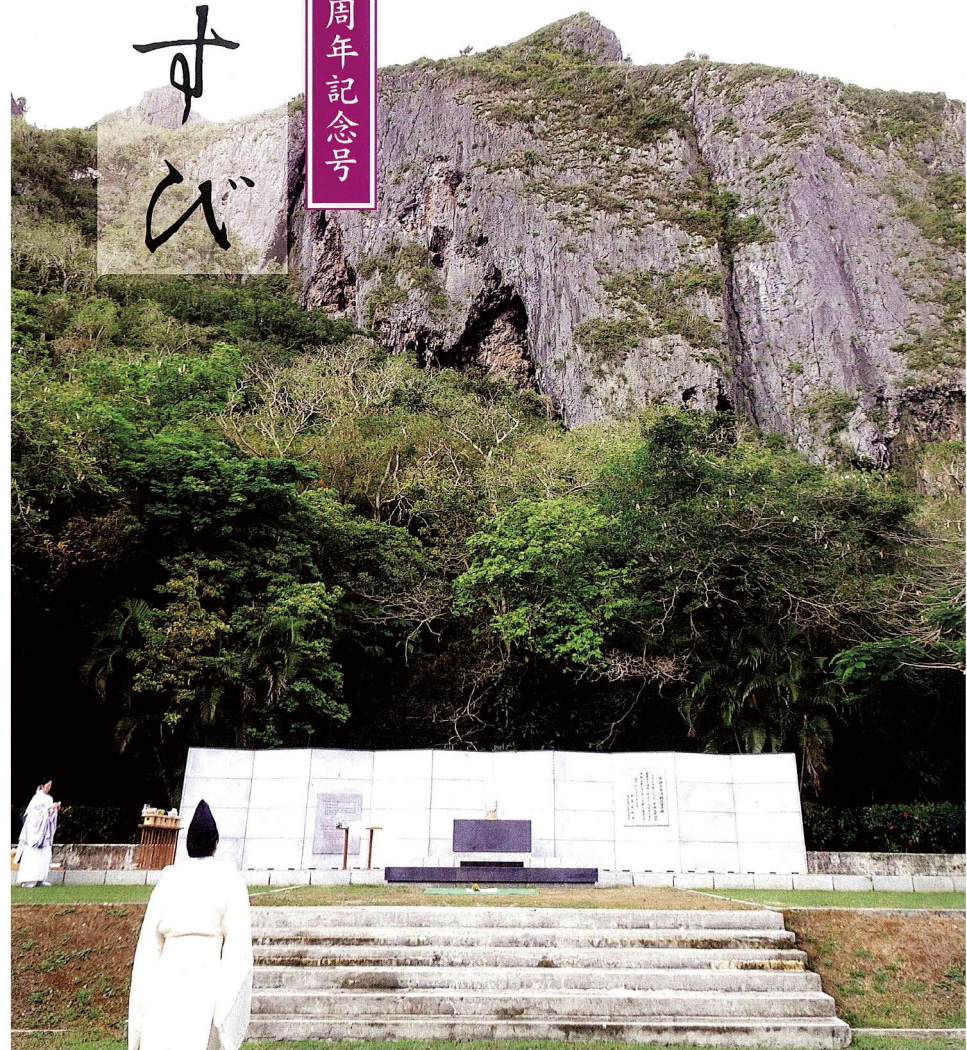
創立五十五周年記念号

第 43 号

平成31年3月吉日

発行所
栃木県青年神職むすび会
広報・事業委員会

発行人
福田 有 宏
印刷所
株式会社 益子印刷





栃木県青年神職むすび会創立55周年記念大会

目次

会長退任挨拶	1
会長就任挨拶	2
創立五十五周年記念事業特集	
実行委員長挨拶	3
記念大会	4
奉告祭	5
サイパン島戦没者慰霊祭	6
御朱印展 〈栃木の神社巡り〉	7
むすび会結成に至るまでの経緯	8
北方領土早期復帰祈願祭	9
福島県復興支援活動	10
祭式合同研修会、神道青年全国協議会夏期セミナー参加報告	11
御田植祭、抜穂祭	12
平成三十年度むすび会事業報告	13
平成三十一年度役員・幹事氏名	14
退会・新入会員紹介、祝・御結婚	15
協賛広告	16
編集後記、広報事業委員会名簿	17
	18
	19
	20
	21
	22



会長退任挨拶

栃木県青年神職むすび会
第二十三代会長 福田 有宏

天皇皇后両陛下におかれましては御機嫌うるわしく御同慶の至りに存じます。

御皇室の幾久しい御安寧を謹んでお祈り申し上げます。

平素は当会の各種事業展開に対し、黒川正邦庁長様をはじめ先輩諸兄各位の格別なる御理解と御協力に衷心より御礼申し上げます。

柳田耕史先輩から会長の重責を託されてより多くの方々に支えられて平成の御代最後となる任期を大過無く全うすることができました。

二年間を思い返せばサイパン島戦没者慰霊祭施行に始まり、創立五十五周年記念大会と栃木の神社巡り御朱印展の開催、神青協一都七県協議会と神道青年全国協議会の諸活動。

頼れる先輩方、信頼できる同輩たち、愛おしい後輩諸子がいてくれたからこそ成し得た成果であります。今は只々感謝の念に堪えません。

後任である田邊雅祥新会長に対しまして、従来同様にお力添えを賜ります様、何卒宜しくお願い申し上げます。

扱、写真は昭和三十七年三月四日の栃木県青年神職むすび会発会式の際、当時の神社庁で

撮られた一枚です。折に触れ当会の歴史や精神骨子について私見を述べて参りましたが、『むすび会が結成に至るまでの経緯について』と題し、本報第十頁に寄稿させて頂きました。連続と続いてきた先人の足跡を学び、伝統あるむすび会を今後更なる高みへと発展させる基礎知識として、親愛なる後輩諸子に贈り会長退任の御挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございました。



発会式記念写真 於神社庁 昭37.3.4



会長就任挨拶

栃木県青年神職むすび会
第二十四代会長 田邊 雅祥

先ず以て謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げますとともに、天皇陛下におかれましては御在位三十年の佳節を迎えられましたこと慶賀に存じます。

また神社庁長様をはじめ県内神社各社、先輩諸兄、関係諸団体、会員の皆様には日頃より栃木県青年神職むすび会の諸活動に格別なるご高配、ご協力を賜っておりますこと誠にありがとうございます。御礼申し上げます。昨年十二月の臨時総会にて、福田有宏会長の後任として二十四代会長を仰せつかりました。甚だ未熟ではございますが微力ながら力を尽くして責務を果たしてまいれる所存です。

扱、昨年の五月三十日に当会創立五十五周年記念大会を日光の地にて盛會裏に行わせていただきました。ご臨席いただきました先輩方のお話を伺わせていただき、改めて今のむすび会があるのも、発会以来社会も神社界を取り巻く環境も目まぐるしく変化してきた中で、諸先輩方が信念を貫き、長い年月をかけて積み上げてこられましたご尽力の賜物と実感いたしました。他県の青年会には見られない「むすび」に込められた意味を再び見つめなおし、会の理念を後々まで伝えていかなくてはと思いを新たにしております。

本年四月末日にて天皇陛下が御譲位あそばされ新帝陛下の新政が始まります。御代替りとなる本年におきましては様々な関係団体での奉祝事業が行われることになるかと存じます。我々も諸事業に協力させていただきますとともに、当会としても奉祝事業を行うべく企画を進めてまいります。

合わせて会の目的でもある自己研鑽と会員相互の親睦を図り、会員一人一人が青年神職としての自覚を持って学びを深め、結束を強めていけるよう各種事業・活動に臨んでまいります。そのために既存の恒例事業の発展に取り組みつつ、近年新しい試みを行っております研修事業もさらに充実させていきたいと存じます。

会員各位におかれましては会での活動、また神青協等の事業の中で、ぜひ若い今しかできない経験を多くしていただきたいと思っております。会員数は年々減少傾向にありますが、その分会員同士の密なつながりを作れるとも思います。志を共にする仲間同士汗をかき研鑽を積み、大いに親睦を深めてまいりましょう。

福田前会長から受け継いだ襷を引き継ぎ、斯界発展と後進の育成に努めて参りたく存じます。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

栃木県青年神職むすび会 創立五十五周年記念事業特集



実行委員長挨拶

下妻 大介

去る平成三十年五月三十日、日光田母沢御用邸・日光千姫物語にて栃木県青年神職むすび会創立五十五周年記念大会のご案内を申し上げましたところ当日は栃木県神社庁長黒川正邦様、栃木県神社総代連合会会長稲葉裕造様をはじめ、県内数多くの神職の先輩方、御来賓関係者の方々に御臨席賜りまして厳粛且つ盛大の内に式典・祝賀会が無事挙行されました事この場を拝借させて頂きまして厚く御礼申し上げます。

記念講演では株式会社小西美術工藝社代表取締役社長デービット・アートキンソン先生を講師に迎え「神社護持と栃木創生への活路」を演題として、ご自身の経験の基に今後、近い将来の為に我々神職が果たすべき役割等について具体的かつ丁寧に大変意義のあるご教授を頂きました。また祝賀会の清興においては歌手の祥子さんに代表曲「恋の神橋」等をご披露いただき会場一体が和やかな雰囲気包まれ、日光の地に於いて佳き思い出の日となりました事を切に願う次第でございます。

さて今期、当会は創立五十五周年の佳節を迎えるにあたり第二十三代福田有宏会長のもと周年記念大会の折にも触れさせて頂きましたサイパン島での大東亜戦争戦没者慰霊祭の実施、また、道の駅しもつけにて栃木の神社御朱印展の開催等様々な活動に会員一同一丸となり取り組んで参りましたのでここで挙げさせて頂きます。

先ず、平成二十九年六月二十一日、サイパン島での慰霊祭では数多くの戦没者の御霊に会員各々が誠の意を捧げると共に現代の日本国安泰の礎を築かれた先人たちに皆が思いを馳せ現地にては幾度となく痛惜の念に駆られました事がとても印象に残ります。今の自己を見つめ直す大きな機会となりました。

また、平成三十年十月九日〜十二日の四日間、道の駅しもつけでは栃木の神社御朱印展と題し催しを行ったところ四日間の開催期間にも関わらず来場者が行列を作り、延べ五千人の方々が会場に足を運んで下さいました。皆それぞれに特徴ある朱印を比較したりしながら何やら楽しそうに話し合っている姿を目の当たりにしていますと大変に嬉しく感じた事を記憶しております。

今、福田会長より周年実行委員長を任せられた時を思い返すと様々な事があり、ほぼすべての物事が自身初めての経験でありました。今日に至るまで私一人では到底成し得なかつたことを皆さま方はじめ、多くの会員たちの支えを頂き何とかこの大役を務めることが出来ました。周年事業が遂行できましたこと改めて此処に感謝の言葉を述べさせていただきます。今後六十一年、七十年と自己研鑽と親睦の精神を基にむすび会の弥益々のご発展をお祈り申し上げます。

創立五十五周年記念大会

日時 平成三十年五月三十日
場所 日光田母沢御用邸記念公園
日光千姫物語

【第一部 記念式典】

- 一、開式の辞
- 一、神宮・皇居遥拝
- 一、国歌斉唱
- 一、敬神生活の綱領唱和
- 一、会長式辞
- 一、創立五十五周年実行委員長挨拶並びに記念事業報告
- 一、来賓祝辞
- 一、来賓紹介
- 一、「神道青年の歌」「美はしき山河」斉唱
- 一、聖寿万歳奉唱
- 一、閉式の辞

【第二部 記念講演】

演題 「神社護持と栃木創生への活路」

講師

(株)小西美術工藝社
代表取締役社長 デービッド・アトキンソン先生

【第三部 祝賀会】

- 一、開宴の辞
- 一、会長挨拶
- 一、来賓祝辞
- 一、乾杯
- 一、祝宴
- 一、中締
- 一、閉宴の辞

この度、栃木県青年神職むすび会は創立五十五周年の節目の年を迎え、昨年サイパン島において福田会長以下九名の会員にて御奉仕申し上げた北マリアナ諸島中部太平洋戦没者慰霊祭に続き、本年五月三十日、日光市において記念大会を開催致しました。式典では、栃木県神社庁庁長黒川正邦様、栃木県神社総代連合会会長稲葉裕造様より御祝辞をいただき、また多くの先輩方に御臨席を賜り感謝申し上げます。

当日は、記念式典に続いて、株式会社小西美術工藝社の代表取締役社長でありますデービッド・アトキンソン先生に、「神社護持と栃木創生への活路」神職が果たす役割とは」という演題で御講演をいただきました。

昨今、少子高齢化・人口減少等が問題視されており、実際に神社界においても氏子数の減少などが騒がれています。我々若い世代の神職が、このような問題にどのように向き合っていくのが課題であります。アトキンソン先生は、人口減少を回復するには一人当たり九人の子供を産まないとの問題は解決しないと仰いました。この解決策は、とても難しく今の我々にとって達成することは出来ないように思えます。そう思う反面、アトキンソン先生はこれらの問題をどのように解決していったらよいかという事を、様々な視点から御講演下さいました。

日本の大自然・文化・文化財を中心に外国人観光客を誘致し日本経済を回復する、本質が変わらなくともとらえ方を変える、発想の転換など、自分が日本人ではないからこそ様々なことに気付く部分があると、アトキンソン先生は仰いました。例えば、外国人向けの案内に対し詳細が記載されていない為わかりづらい点、彼らはなぜ御社殿に座るのか、このような行為に対し我々は相手の立場になり考えを改めたほうがよいのかもしれない。

我々青年神職も、氏子崇敬者の立場になり考え行動する、また新しい発想をもつて神明奉仕に勤しみ、当会の仲間たちと話し合い、一丸となつて様々な問題に向き合っていくことが大切であり、栃木創生への活路の一步となるのではないかと感じました。

【第1部 記念式典】



福田会長



黒川栃木県神社庁長



稲葉神社総代連合会会長



下妻実行委員長



【第2部 記念講演】



講師 デービット・アトキンソン先生



【第3部 祝賀会】



第6代阿部会長



第7代中庵会長

むすび会創立五十五周年奉告祭

五十五周年奉告祭に奉仕して

奉仕者

斎主

副斎主

典儀

祭員

祭員

祭員

下妻大介 副会長・創立五十五周年実行委員長・今宮神社 権禰宣

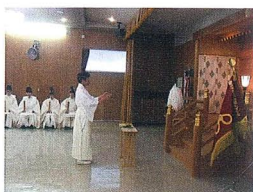
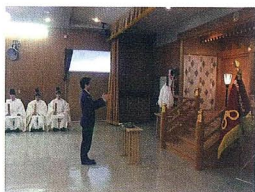
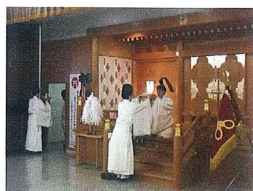
田邊雅祥 副会長・岩崎神社 権宣

上野敬則 事務局長・白鷺神社 権宣

和田晋典 会計・瀧尾神社 権宣

山本明翔 創立五十五周年実行委員会総務・日光二荒山神社 権禰宣

小林迪寛 庶務・宇都宮二荒山神社 権禰宣

日時 平成三十年五月八日
場所 栃木県神社庁神殿

この度、栃木県青年神職むすび会創立五十五周年を迎えるにあたり平成三十年五月八日午後三時より栃木県神社庁の御神殿に於いてむすび会創立五十五周年記念奉告祭が執行されました。当日は、栃木県神社庁参事堀口邦夫様をはじめ、多くの当会員にも参列を賜り、下妻周年実行委員長斎主のもと厳肅な中執り行われ、当会の今後益々の発展と記念大会の成功を祈願致しました。各々の神社の神職六名が心をひとつにして記念大会の成功の為に一致団結して御奉仕できたと思います。また、斎主下妻周年実行委員長・福田会長・堀口参事・柳田監事に玉串拝礼を賜り、参列された多くの当会員も福田会長に合わせて拝礼し、記念大会に向けて会員一人ひとりの士気がより一層高まりむすび会の団結力や意志の強さが感じられた気が致します。私自身祭員として御奉仕させて戴きまして、滞りなく祭典が御奉仕できた安堵感と同時に貴重な経験を得る事ができ、このような機会を戴けて皆様に感謝申し上げます。

当会は、県内で神明奉仕する若手神職が将来の斯界を思い会員相互の融和と親睦を図り、神社の垣根を越えた氏子崇敬者の教化育成に果敢に取り組み、更なる研鑽に励む有志の会として今日まで一貫した活動を展開してまいりました。これまでの活動に対し、感謝と敬意を表すと共にこれまでに築いてきた活動を継承・発展させなければならないと感じました。また、これからの記念事業と致しまして、栃木県内神社巡り御朱印展が十月上旬に開催予定となっており、斯界の発展や神道教化に繋がればと考えております。

むすび会創立五十五周年記念奉告祭が無事に執行された事を機に記念大会当日が晴天のもと盛大に開催され成功致します様、開催まで残り僅かとなりましたが、日々精進を重ねていき、周年総務としての責務を果たし微力ながら貢献できれば幸いです。

(日光二荒山神社 山本明翔)

栃木県青年神職むすび会創立五十五周年記念事業として、此度サイパン島での慰霊祭を行うこととなりました。当会としては昭和五十年以来のサイパン慰霊祭となりました。

北マリアナ諸島サイパン島北部、この地の戦の末期に日本兵・在留邦人が身を投げたスーサイドクリフと呼ばれる崖のあるマッピ山の麓であり、かつ最後のサイパン島日本軍司令部が置かれていたラストコマンドポストの隣に中部太平洋戦没者の碑は建てられています。この碑は中部太平洋の諸島及び海域で戦没された約十一万三百名の慰霊のために昭和四十九年に日本政府によって建てられ、平成十七年には天皇皇后両陛下が行幸啓あそばされました。此処で平成二十九年六月二十一日現地時間午前八時より、周年事業実行委員長である下妻副会長を齋主とし、会員六人にて祭典奉仕、福田会長はじめ三人が参列し慰霊祭を執り行いました。サイパン島では、昭和十九年六月十五日にアメリカ軍の上陸作戦が始まり同七月九日まで激しい戦闘が行われ、島内だけでも日本人戦没者は約五万五千名を数えたことでした。碑前には日本から持参した米、酒をはじめ菓子、煙草等と現地の青果を供し、祭典の中では下妻副会長の祭詞奏上の後に福田会長の祭文の奏上、また岩松議長による浦安の舞の奉奏もなされ、当会の代表者として英霊はもとよりこの地のすべての戦没者

サイパン島戦没者慰霊祭

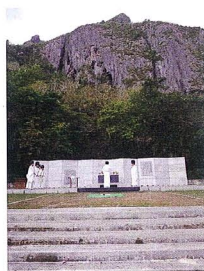


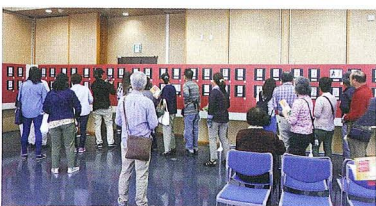
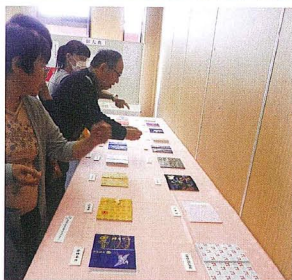
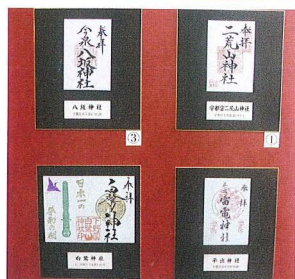
の御霊に慰霊の誠を捧げて参りました。南国特有の高温多湿な気候は堪えましたが、心配していた天候にも恵まれ、静寂の中厳肅かつ真心のこもった慰霊祭を齋行することができました。

慰霊祭の後には彩帆香取神社の参拝をはじめ、様々な戦跡や歴史的施設などの見学に向かいました。日本人自決の場所であるスーサイドクリフ・バンザイクリフには様々な団体により慰霊碑が建てられ、現在でも定期的に慰霊事業が行われているとのことでした。山の岩肌には艦砲射撃の痕が見られ、被弾した施設や兵器などが七十年余り経った今でも保存されており、当時の日本人の技術力の高さや戦闘の激しさ、惨状が伺えました。しかしながら、心無い観光者による戦跡や施設また遺族が建てた墓石等への悪戯や落書きなどが見られたことは非常に残念でなりませんでした。

サイパンにて慰霊祭を齋行でき、現状を直に目で見て肌で感じられたことは何にも代えがたい貴重な経験となりました。この旅で学んだことを今後に生かし、また遍く伝えていくことが我々の使命かと存じます。結びに今回の慰霊の旅を支えてくださったすべての方に心より感謝申し上げます。

(岩崎神社 田邊雅祥)



御朱印展
「栃木の神社巡り」

秋の気配が深まり始めた十月九日、下野市にある「道の駅 しもつけ」において、栃木県青年神職むすび会創立五十五周年記念事業『御朱印展（栃木の神社巡り）』が、四日間の日程で開催されました。

近年、老若男女幅広い年齢層の方々、また国籍を問わず、御朱印を求めて神社仏閣へ参拝する方が増えています。世間では「御朱印ブーム」と言われているようですが、これは一時の流行に止まらず、今後も暫く賑わう様相を呈しているのではないかと考えられます。そこで、当会では、これを県内神社に向けた更なる教化活動と広報韓旋の好機と捉え、当記念事業を開催すること致しました。

開催にあたり県内各社を始め当会の先輩方へ御協力をお願いしたところ、八十二社の宮司様より快く承諾の旨をいただきました。常日頃より当会諸事業に御関心をお持ちいただいている事を実感するとともに、此度の御協力に心から感謝を申し上げます。

事前広報用のポスターやチラシの作成、展示パネルの準備、教化資料の選定等、多くの方々の御理解御協力の下、各々が社務の合間をぬって、短い準備期間ではありましたが、ほぼ全て自分たちの手で作り上げることが出来ました。

開催当日は早朝より搬入や設置等を行い、白衣袴姿で午前十時の開場を迎えました。会場の外では、定刻一時間前から長蛇の列が出来ており、大勢の方々が開場を今か今かと待ち望んでおりました。来場された方々は、県内八十二社の御朱印が一堂に会した様を写真に収めたり、御大典のパネルを熱心にご覧になったり、白衣袴姿の会員に説明を求めたりと、それぞれ心ゆくまで御朱印展を堪能されている様子でした。

また、開催期間中は会員が複数名常駐し、御来場いただいた方々へ各社の御朱印並びに御朱印帳の紹介や、神社所在地・参拝時間・御朱印の種類等の説明、併せて御大典に関する広報資料の紹介や、年末へ向けて神宮大麻の普及促進に関する活動も行いました。

大きな問題もなく無事に初日を終え、来場者数を確認しますと、世間の

「御朱印」への関心の高さが、改めて実感出来るような数字で大変驚きました。尚、十月九日から十二日までの四日間に御来場下さった方々は、延べ五千人。本場に沢山の方々に御来場いただき、会員一同当事業の成功を心から実感致しました。

此度の記念事業が、県内各社の教化・広報等の様々な面において微力ながらお役に立てればと願います。また、当会が作成したパネル等を使用し、県内各所でこのような展示を再度開催出来れば、より一層神社への関心が深まるのではないかと考える次第です。

（津島神社 岩松史恵）

一度見たら
集めたいくなる！

栃木県内各社の個性豊かな
御朱印・御朱印帳が
勢揃い！

栃木の神社巡り
御朱印展

創立五十五周年
記念事業
むすび会

4日間開催
10/9~12
会場 道の駅しもつけ
各日 午前10時~午後4時まで

御朱印展示 70社以上！！

下野市第2寄道3720-1

むすび会が結成に至るまでの経緯

昭和二十一年に神社本庁が創設され、政府と切り離された神社界は自立と団結によつて消滅の危機を脱した。各神社に於いても組織の再構築は喫緊の課題だったが、人材と資金不足に加え占領下に於ける根強い神仏輕視、何より斯界自身の旧体制脱却が足枷となつていたことは否めない。この窮地を若者の力で打開しようとする神職たちが全国各地で声を挙げ、やがて友誼を作り始めた。もちろん我らの栃木も例外ではない。

昭和二十二年 九月 十七日 第一回栃木県青年神職会(仮称)設立準備会開催 発起人に宮田功雄氏、柳田耕平氏、矢島清文氏
十月 五日 第二回栃木県青年神職会(仮称)設立準備会を宇都宮・荒山神社白嶺閣にて開催

名称を「栃木県青年神職聯盟」に改め規則審議、各支部へ本部委員の選出依頼、会員の募集を開始する

栃木県青年神職聯盟の会員希望者数が八十七名に達する

昭和二十三年 十一月 委員総会開催 委員長に柳田耕平氏、副委員長に宮田功雄氏、矢島清文氏、各支部より二名の委員を選任
昭和二十五年 四月二十八日 委員総会開催 一部規則改正、名称を「栃木県青年神職会」に改称、新役員選任

順調に滑り出したかに見えた栃木県青年神職会だったが、戦後間もない当時は紀元節復活署名運動や神道教化活動の類は旧右翼的策動として反神社勢力から痛烈な批判を受ける。更には神青協活動が警察機関から注視され、青年神職が刑事から取り調べを受ける事例まで発生する。事態を憂慮する神社界は既存の教化部と青年会の関係を要再検討とし、委員長長の辞表を以て栃木県青年神職会が神社庁教化部に包含となる。神青協から再三の再起を求められも叶わず、昭和二十七年に栃木県青年神職会は無名の形となったのである。その後「教化部」は「教化委員会」となり、総務、広報、調査、婦人、児童の専門部と並び青年部が設置される。このころ本庁から氏子青年団結成と教化促進に関する指針が出され、青年部は昭和三十六年四月九日の栃木県氏子青年会発足までの足掛け九年に亘り見事大役を全うし、存在を内外に示すことができたのである。挫折と辛抱の十年を乗り越え、栃木県神社庁が設立十五周年を迎えた昭和三十六年の秋、再び若者たちに青年神職会結成の機運が高まる。

昭和三十六年 十月 結成準備委員会発起人に横瀬勝壽氏、松田一郎氏、山田文明氏、中島俊幸氏、宮原功氏、荒川本一氏
十一月 七日 (仮称) 栃木県青年神職会 第一回結成準備委員会を神社庁にて開催、十二名出席
十二月 二日 第二回結成準備委員会を神社庁にて開催、九名出席
昭和三十七年 一月二十二日 第三回結成準備委員会を神社庁にて開催、十五名出席
二月 九日 結成準備小委員会を日光東照宮にて開催、五名出席
同 二月二十六日 最終回結成準備委員会を神社庁にて開催、十名出席
同 三月 四日 「栃木県青年神職むすび会」発会式を神社庁にて開催、初代会長に横瀬勝壽氏就任、会員総数三十六名 以来、現在に至る。

当会の創立周年数が他の単位会に比べて少ないのは「栃木県青年神職むすび会」の誕生が他に例を見ない難産だった何よりの証である。当会はまもなく「還暦」を迎えようとしている。定番の「赤いちゃんちゃんこ」で満足することなく、一人ひとりが考えを持ち寄り、熱い議論を交わし、ひとつの目標に向かって一致団結する。青年神職の会に相応しい「衣」を生み出して欲しい。後輩諸子の益々の活躍を心より御期待申し上げる。

参考資料「栃木県神社誌(第一作)・栃木県神社誌(第二作)・神青協創立二十周年記念誌・会報むすび各号」より引用抜粋

(日光・荒山神社 福田有宏)

神道青年全国協議会創立七十周年記念事業

北方領土早期復帰祈願祭

明年に創立七十周年を控えた神道青年全国協議会は、五月二十三日から二十四日、北海道根室市にて、創立七十周年記念事業の第一弾として「北方領土早期復帰祈願祭」を斎行し、全国よりの会員と共に、むすび会として福田会長と私が参列させて頂きました。

初日、午後四時半より根室金刀比羅神社にて正式参拝をし、参拝後には前田宮司様より御挨拶を頂き、その後、根室商工会議所に於いて、「北方領土早期復帰祈願祭研修会」を受講しました。第一講は根室市内の高校生による「北方領土出前講座」にて北方領土の地理、歴史、風土や現状について学び、第二講では、色丹島出身の元島民語り部の方に『北方領土の思い出』と題して講演をいただきました。終戦後のソ連による不法な占領によって余儀なくされた不安かつ不自由な生活を送られたことなどを伺い、故郷を奪われた悔しさ、北方領土の早期復帰への想いを拝聴しました。戦後七十年以上が過ぎ、元島民の方々も高齢になっています。一刻も早い解決を願うと共に、我々一人一人の小さな一歩の積み重ねが必要であることに痛感致しました。

翌日は、バスにて納沙布岬鎮座、納沙布金刀比羅神社へと向かい、境内の「北方領土の碑」前にて早期復帰祈願祭に参列しました。この碑は、昭和五十三年に神道青年全国協議会創立三十周年記念事業として全国の会員が持ち寄った石を礎石として建立されたもので、時の先輩方の意志を受け

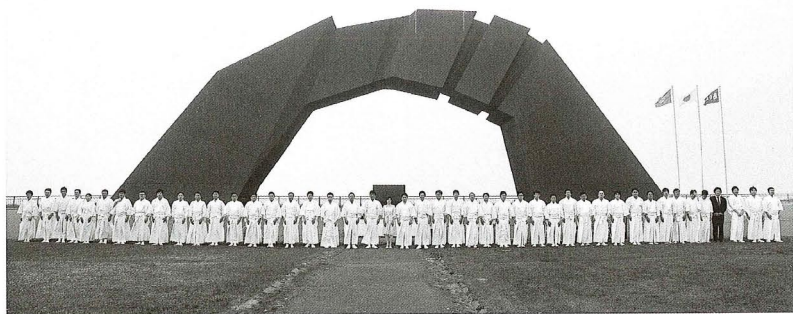
継ぎ神青協の周年ごとに早期復帰祈願祭が斎行されています。当日は降雨の心配をしましたが、何とか無事に祭典が齋行され、その後、「四島の架橋」前にて、歌手の山口采希さんが作詞作曲した、北方領土復帰への想いを込めた新曲を全国同士とともに聴くことができました。



私は、前回の神青協六十五周年の際にも参列させて頂きましたが、それから北方領土返還については何も進展していないのが現状です。まずは当会会員のみんなに伝え、氏子崇敬者へ伝えることが、参列参加した何よりの意義だと認識し、実践して参ります。

今回も晴天なら遙かに肉眼で見ることが出来るはずの北方領土は見ることは叶わなかったわけですが、いつかこの問題が解決され、肉眼でしっかりと見渡せる機会を願いつつ、ともに復帰への祈りを捧げてまいりましょう。

(大前神社 柳田耕史)



北 関 東 三 県 合 同 福 島 復 興 支 援 活 動

二月二十五日から二十六日にわたって、いわき市のスパリゾートハワイアンズにて北関東三県合同福島復興支援活動が実施されました。

今回の研修では「非常時のホスピタリティ」という演題のもと、ハワイアンズ宿泊統括支配人郡司昌弘様のご講義を拝聴しました。

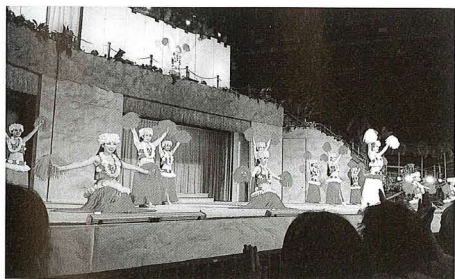
八年前に発生した東日本大震災において、ハワイアンズも甚大な構造被害、風評被害を受けました。しかし、ハワイアンズは震災前と変わらぬ活気を取り戻しています。そこには「一山一家」の精神が深く関係しているとお話でした。炭鉱の町として歴史があるいわきにはこの精神が今でも根深く残っています。ハワイアンズは、これまで地域社会と共に団結し、一体化しここまで繁栄してきました。実際に震災後「いわきの復興はハワイアンズから」という声が地域の方々から挙がったといいます。

この「一山一家」の精神は、私達神社界にも通ずるものがあります。地域の皆様と共存共栄し、心の拠り所となる御社。地域の皆様と御社の仲執り持ちとして、日々の神明奉仕に心掛けることを改めて考えさせられました。

二日目は佐藤研修副委員長の御実家、立錫鹿島神社を参拝させて頂き、お母様より神社の御由緒、震災時の対応などのお話をお聞きしました。

今回この研修を通して北関東三県の青年神職の懇親の輪を益々深めることができました。今回の研修で学んだ「一山一家」の精神を活かし日々の奉仕に励み、今後も北関東三県の青年神職で手を取り復興支援を協力して行っていきたいと思いました。

(星宮神社 小林普史)



祭式合同研修会

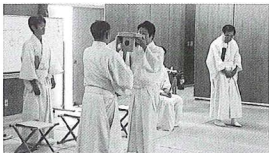
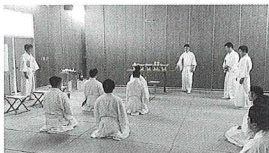
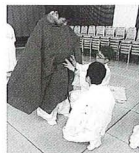
去る八月二十四日、神社庁に於いて『第一回祭式合同研修会』が開催されました。篠田薫先生を講師にお迎えし、沼部泰幸先輩には講師補助をお勤め戴きました。今回から会員以外の先輩方にも参加をご案内申し上げましたところ、伊藤先輩、河原先輩のご賛同を賜り、総勢十六名で研鑽の汗を流しました。

午前中は基礎祭式を中心に始まり、小祭式に沿って斎主・祝主・大麻所役・塩湯所役・祝詞後取・玉串後取・案後取・薦後取を夫々が交代し、作法の細部を確認していました。一人ひとりの作法が神社祭式に則っていることは勿論のこと、奉仕する全員が祭式の統一感を醸し出せるかがとても大切であることを学びました。

午後は衣紋のご講義を賜りました。主に正服の着装について多くの時間を割いて下さいました。いつも途中から形が崩れ最後まで綺麗に着装出来ないことが私の悩みでしたが、篠田先生や先輩方が親身に教えて下さり、段々とコツを掴む事が出来ました。早く、綺麗に、丁寧に、衣紋は装束を着る人の身になって考えることが何より大切なのだと学びました。最後に篠田先生からお褒めの言葉を掛けて戴き、本当に嬉しかったです。

私はこうした研修会には初めて参加させて頂きました。たが、受講者同士が助け合い、切磋琢磨する姿に感銘を覚えました。また些細な事も篠田先生や先輩方に気兼ねなく質問する事ができ、大変勉強になりました。今回学ばせて戴いたことを日々の神明奉仕に活かすべく、更に自己鍛錬に励みたいと思います。次回も是非参加させて頂きたい。

(日光二荒山神社 太岐口建彦)



神青協夏期セミナー

「転換期にたつ我ら」(世論を喚起するために)を主題として掲げ平成三十年度神道青年全国協議会夏期セミナーは四人もの講師陣をお招きし、八月二十九日・三十日の二日間に渡り行われました。

講義が始まると、社務多忙のなか集まった百六十人余の受講生が皆一様に真剣な眼差しを講師に向け、一言一句聴き漏らす吸収しようとする緊張感からか静かな中にも熱気のある時間が過ぎました。

講義の内容としては後にも記す通り、明年の御代替や憲法改正などに際してこの時代にたつ青年神職として何ができるのかを考えさせられる内容でした。

さて、主題にもなった通り今を生きている我々は大きな転換期にあります。ひとつは今上陛下の御譲位により来年五月に皇太子殿下が御即位されること。もうひとつは日本国憲法改正にむけた動きが現実味を帯びてきたことです。御即位三十年の佳節を迎えるにあたり皇室への国民の関心もますます高まっているこの時を好機と捉え、青年神職にできることは何かがあるか何が強みかと考えますと、我々青年の強みは「行動する力」と「適応する力」にあると思いました。

環境や流行が日々移り変わる現代においては宣伝や教化などに適した方法もまた常に変化しています。電車移動の際に最たる宣伝媒体であった中吊り広告は各々の手元にある携帯電話に映されるネット広告に代わり、新聞記事やニュースはパソコンで閲覧する時代になりました。ネット社会となった昨今、我々は古き良きものを今後にも伝えるべく時代に適応し、新しき良きものを取り入れ使ひこなし、また、ネットやSNSの普及から爆発的に増えた情報を常に吟味し自ら考えを教え広め周りの人々の指針となることも神職の務めではないかと考えました。

今回のセミナーで学んだことは今後一人で考えるに留めず周りの仲間たちと議論しあうことで、神職としての信念をより確固たるものとするべく精進していきたいと思います。

(御厨神社 小堀巧人)



御田植祭

五月十四日、澄み渡る青空の下、毎年恒例のむすび会及び栃木県神社庁教化委員会合同の御田植祭が齋主田邊むすび会副会長ご奉仕のもと、無事に執り行われました。今年も多くの方々が御田植祭に参列いただきました。御田植祭前日には強い雨が降り、また当日も雨の予報が出ていたため例年通りに齋行出来るのか心配していましたが、冒頭で述べた通り快晴の下で無事に齋行することが出来ました。例年通り御田植祭の後には、この神田の管理者である滝口様に稲の管理をお願いするわけでありますが、毎日の水の管理や炎天下での草刈り、台風などの悪天候への対処など大変さを考えると本当に頭が下がる思いです。この場を借りて感謝申し上げます。現代社会においてはお腹が空いたなら店に行けばすぐに何でも食べることができ、欲しい食材があればネットで注文して翌日には手に入ります。そのような当たり前に食事が出来る生活環境の中で我々は農作物を作ることの苦労というものを感ずることがなくなってきたと思います。我々が食べ物に不自由しないのは農家の方々の苦労があつてこそだといふことを忘れてはいけません。かく言う私も身内や知人に農業従事者がいて、微力ながら手伝いの経験もあるにもかかわらず、その様な思いをはせることが無く、恥ずかしに限りです。この度の御田植祭でのご奉仕は色々と考えさせられるものでした。

(大前恵比寿神社 齊藤隆倫)



去る九月二十七日、第十八回目となる抜穂祭が栃木県神社庁教化委員会と当会合同の開催にて那須烏山市志島に御鎮座する滝口宮司様ご本務の愛宕神社にて執り行われました。

本来であれば御神田に祭場を設けての齋行となりますが、当日は天候が優れず生憎の雨となりましたので、急遽祭場を移し社殿での御奉仕となりました。又、恒例の稲刈り奉仕はやむなく中止となりました。

祭典におきましては定刻十時半より当会の下妻大介副会長・佐藤大直会長にご奉仕頂き、南那須支部長岡田和磨様をはじめ御来賓の方々・教化委員会・当会会員の計十五名の御参列を賜り神事は滞りなく執り納め、事の由を大神様にお伝え申し上げ感謝の念を表しました。その後拝殿に於きましてお弁当での直会を行い、一時間程歓談の後お開きとなりました事ご報告申し上げます。

本年は稲の刈り取り奉仕は行えませんでした。御神田には雨の中すくすく元気な育った稲穂が立ち並び収穫を待ちわびておりました。八百万の御神様の御恵みと我々の御先祖様をはじめ先人の方々の知恵と苦労、更には稲を植え大切に育ててこられた農家の方々の勤耕により実りの秋を迎え明日の食を得られるという事に畏敬の念を抱かれます。今年もまた天地の神に大地の恵みを感謝申し上げます。

末筆となりますが、御神田の維持管理・稲のお世話をお願いした多くの関係者の皆様には会員一同衷心より厚く御礼申し上げます。

(報徳二宮神社 武内聡史)

抜穂祭



平成三十年度 むすび会事業報告

(平成三十年)

四月 三日

むすび会会計監査並びに第一回役員・委員長・周年会議

栃木県神社庁

懇親慰労会

宇都宮市内

四月 二十日

第一回一都七県協議会定例会議

神社本庁

四月 二十六日

第七十回神青協定例総会

神社本庁

四月 二十八日

栃木県護国神社例祭助勤奉仕

栃木県護国神社

五月 八日

第二回むすび会役員・委員長・周年会議・平成三十年度定例総会

栃木県神社庁

昇級者祝賀会・懇親会

一都七県協議会監査会

教化委員会・むすび会合同御田植祭

五月 十四日

創立五十五周年会議

東武ホテルグランデ

五月 二十一日

とちのみ学園神棚祭

東 京 都

五月 二十三日

神青協北方領土早期復帰祈願祭

那 須 烏 山 市

五月 二十四日

むすび会創立五十五周年記念大会

佐 野 市

五月 三十日

第二十四回神青協一都七県定例総会

北海道根室市

六月 十八日

第三回むすび会役員・委員長・周年会議

日 光 市 内

七月 三日

那須御用邸勤労奉仕

浅草ビューホテル

七月 二十六日

第四回むすび会役員・委員長・周年会議

栃木県神社庁

八月 二日

第二回一都七県協議会定例会議

栃木県神社庁

八月 十五日

栃木県護国神社戦没者慰霊祭

那 須 御 用 邸

八月 二十四日

第一回祭式合同研修会

栃木県神社庁

八月 二十九日

懇親暑気払い

宇都宮市内

八月 二十九日

第五回むすび会役員・委員長・周年会議

栃木県神社庁

八月 二十九日

神青協夏期セミナー

神 社 本 庁

九月 二十七日

教化委員会・むすび会合同抜穂祭

那 須 烏 山 市

十月 二日

栃木県神社関係者大会

栃木県護国神社

十月 二日

第二十二回一都七県協議会神職野球大会

道 道 の 駅 し も つ け

十月 九日

創立五十五周年事業

神 社 本 庁

十月 十二日

御朱印展 〔栃木の神社巡り〕

神 社 本 庁

十月 十九日

第三回一都七県協議会定例会議

神 社 本 庁

十一月 十四日

第六回むすび会役員会

神 社 本 庁

十一月 二十四日

神青協臨時総会

神 社 本 庁

十二月 四日

むすび会臨時総会

神 社 本 庁

十二月 十一日

忘年会

神 社 本 庁

十二月 十一日

第四回一都七県協議会定例会議・研修会

神 社 本 庁

十二月 十一日

忘年会

神 社 本 庁

十二月 十一日

第五回一都七県協議会定例会議・顧問会

神 社 本 庁

十二月 十一日

忘年会

神 社 本 庁

十二月 十一日

建国記念日奉祝式典・パレード

神 社 本 庁

十二月 二十五日

第七回むすび会役員会

神 社 本 庁

二月 二十六日

群馬茨城合同福島復興支援活動

神 社 本 庁

三月 十三日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

三月 十四日

中央研修会

神 社 本 庁

※その他 執行部会、役員会、役員・幹事・正副委員長会を必要に応じて開催

平成三十一年度むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	田邊雅祥	岩崎神社	禰宜
副会長	岩松史恵	津島神社	禰宜
副会長	上野敬則	白鷺神社	禰宜
事務局長	和田晋典	瀧尾神社	禰宜
会計	小林誉史	星宮神社	禰宜
庶務	岡村洋佑	乃木神社	禰宜
渉外	山本明翔	日光二荒山神社	禰宜
監事	福田有宏	日光二荒山神社	禰宜
監事	寺内誉迪	村檜神社	宮司
監事	小林迪寛	宇都宮二荒山神社	禰宜
議長	池口敦	古峯神社	禰宜

各種委員会

正副委員長・顧問

【広報委員会】

委員長 黒本裕子

大宮神社

宮司

副委員長 黒川寧子

雄琴神社

禰宜

【事業・親睦委員会】

委員長 越口政典

天満宮

禰宜

副委員長 井上潤一

大前神社

禰宜

【研修委員会】

委員長 齊藤隆倫

大前恵比寿神社

禰宜

副委員長 武内聡史

報徳二宮神社

禰宜

【地区代表幹事】

中央地区代表（宇河支部・宇都宮二荒山神社）

篠崎博哉 宇都宮二荒山神社

禰宜

北東部地区代表（芳賀支部・大前神社・塩谷支部・南北那須支部）

根本直樹 大前神社

禰宜

西部地区代表（上都賀支部・古峯神社・日光二荒山神社）

三田真隆 日光二荒山神社

禰宜

南部地区代表（下都賀支部・唐澤山神社・安佐支部・足利支部）

高橋林之介 太平山神社

禰宜

一都七県・神青協関係

一都七県理事神青協代議員

田邊雅祥 岩崎神社

禰宜

神青協代議員

上野敬則 白鷺神社

禰宜

神青協時局問題調査員

岡村洋佑 乃木神社

禰宜

神青協出向 山本明翔 日光二荒山神社

禰宜

一都七県事務局員

小林誉史 星宮神社

禰宜

新入会員紹介



篠田 元暉

奉職先 宇都宮二荒山神社

役職 出仕

自分を一言で表現して下さい 温厚
これからの抱負をお願いします

むすび会を通してたくさんの方と交流を深め神明奉仕に活かしていきたいです。



武内 聡史

奉職先 報徳二宮神社

役職 禰宜

自分を一言で表現して下さい 不器用

これからの抱負

神社の為、地域の為、又皆さんのお役にたてるよう努めて参りたいと思います。
今後とも宜しくお願い致します。



小林 誉史

奉職先 星宮神社

役職 禰宜

自分を一言で表現して下さい マイペース
これからの抱負

氏子崇敬者の皆様と懇親の和を深め日々の神明奉仕に努めていきたいです。

退会会員紹介



外鯨 泰子

後輩への一言

これからの新しい時代に皆様の新しい力を存分に発揮してください。
ご挨拶

今まで大変お世話になりました。ありがとうございました。



柳田 耕史

後輩への一言

一生の仲間を作るむすび会。楽しんで活動して下さい。
ご挨拶

多くの経験と繋がりのお機会を頂き感謝しています。「むすび会」のさらなる
発展と会員各位の成長を期待しつつ、何かあればしっかりサポートしてい
きたいと思います。



柳田 晋作

後輩への一言

更なる活躍をお祈り致します。
ご挨拶

大変お世話になり、有難うございました。



多田 隆一

後輩への一言

これから頑張ってください。

ご挨拶

楽しく活動させていただきました。ありがとうございます。



下妻 大介

後輩への一言

むすび会の益々のご発展をお祈り申し上げます

ご挨拶

大変お世話になりました。ありがとうございます。



石原 彰人

後輩への一言

様々な方がご参拝に来られるようになった今、皆様が一神社人として、氏子・崇敬者の皆様よりの支えを自覚し、浄明正直に各々の社務にご奉仕されること
が神社、ひいては神道の維持に繋がっていくことと思われまふ。是非神職を志
したときの気持ちを忘れずに、神社界を盛り上げていって下さい。

ご挨拶

残念ながら諸々の会議、集まり等へは社務の都合上出席することは叶いません
でしたが、むすび会又神社界の益々のご発展をお祈り申し上げます。



沼部 泰幸

後輩への一言

みなさんの御活躍を心から祈っております。

ご挨拶

あまり参加できませんでしたが、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。



佐藤 大直

後輩への一言

頭寒足熱

ご挨拶

福島青年会に入ってもよろしく願ひします。



田邊 雅祥

奉職先 岩崎神社

入籍日 平成三十一年三月二日

新婦 恵美

新郎のつぐやき 夫婦共々よろしく願ひします。

総合印刷

(株)井上総合印刷

代表取締役会長 井上 光夫

代表取締役社長 井上加子

本社 宇都宮市岩曽1355

TEL(028)661-4723

FAX(028)662-7607

宮内庁 神社本庁・栃木県神社庁・各県神社庁
全国神社・小笠原流弓馬術礼法教場
御用達**株式会社 大槻装束店**

代表取締役 大槻 奈津子

〒113-0034 東京都文京区湯島3-13-2

<http://www.ootsuki-shozokuten.com>

E-mail: info@ootsuki-shozokuten.com

千代田線・湯島駅徒歩4分 / 御蔵前・末広町駅徒歩6分

電話：03-3835-3201 FAX：03-3835-0617



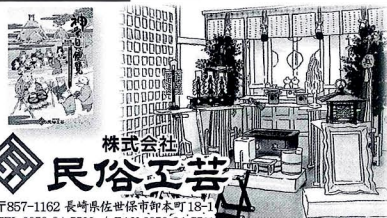
神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本社

〒516-8611 三重県伊勢市岩曽2丁目5番29号(私営第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamiijiya.co.jp

神 苑(※日本全国)

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号 ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamiijiya.co.jp
<http://www.kamiijiya.co.jp>**株式会社 民俗至芸**〒857-1162 長崎県佐世保市本町18-1
TEL 0956-34-5500 / FAX 0956-34-5511
<http://www.minzoku.co.jp>
土曜日も平常通り営業致しております。

お伊勢参りのお食事とお土産は

宇治橋より歩いて30秒

**岩戸屋**

伊勢名物 岩戸餅 生麦精

〒516-0024

伊勢市宇治今在町58番地

☎ 0596-23-3108

FAX 0596-28-1322

インターネットでも販売しております。

<http://www.iwatoya.co.jp>

E-mail: info@iwatoya.co.jp

足袋・和装用品専門店

**株式会社 福生**

〒590-0953

堺市堺区甲斐町東1丁2-30

フリーダイヤル 0120-29-0051

FAX 0120-29-0052

ホームページ <https://www.tabiya.net>

全国各神社御用達

神符・守札・木札・錦守・御守矢・交通安全守
集印帳・御守り袋・絵馬その他各種御札・御守
奉書紙・書道半紙・耐水奉書・他各種和紙織製

創業江戸時代後期 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 和弘

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11

電話 055 (272) 0514

FAX 055 (272) 8818

【高級】
【西陣織】各種金襴御守・木札・紙札・ステッカー
絵馬・木彫・土鈴・装束・振袖・記念品御社ならではの御守とオーダーメイドで作るオリジナル守り
色・柄・形などお礼状に御目録添付京都奉製株式会社 京都本社 / 東京営業所
仙台営業所 / 福岡営業所☎ 0120-164124 (イロヨイニキ) <http://www.omamori.co.jp>

御社頭授与品奉製

※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社

〒311-4153
茨城県水戸市河和田町3891
電話 (029) 251-0997(代)
FAX (029) 252-8287



創業百年信頼ブランド

麻・鈴緒・鰐口紐・化繊注連縄製造
有限会社 モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
フリーダイヤル 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387
<http://www.t-cnet.or.jp/~momidiya/f-top>

内宮に一番近い宿



ゆとりとやすらぎの宿

伊勢神宮崇敬会

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL.0596-22-0001/FAX.0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

各授与品、記念品奉製

金襴綿守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 029-251-2051(代) FAX 029-253-5844
E-mail sanaikougei@movie.ocn.ne.jp

社寺建築請負い

株式会社 石川工務店

代表取締役 石川 明

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL 0288-54-0750

御装束・御社殿装飾調度・祭器具
家庭用御宮各種・授与品・記念品

(株) 高善装束店

代表取締役 桑 茂雄

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9
TEL 03(5815)8771
FAX 03(5815)8772

松岡計量器



〒503-0888 岐阜県大垣市丸の内1丁目6番4地 電話 0584-78-2364



株式会社 皆中 kaichu

〒156-0045 東京都世田谷区桜上水4-8-7 HALS桜上水2F
TEL 03-3302-1899/FAX 03-3302-1900
E-Mail:koushin@kaichutabi.com
<http://kaichutabi.com>



祈りをかたちに

授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川義貴

〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL 048-921-1221(代表) FAX 048-921-1515

誠実と真心で奉仕する

御守・授与品・参拝記念品奉製
天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ

御一報次第力タログ御送り致します。

 グリーン産商株式会社

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL(06)6702-6009(代表) FAX 0120-34-2996



総合広告代理業 Advertising Agency.

株式会社 下野広告社

代表取締役 山本 守

〒320-0033 宇都宮市本町9-17
☎ 028-666-8123/Tel(代表)

授与品専門奉製所

常陸神宝(株)

商標登録 「夢みくじ」「一期一会御守」

〒310-0902 水戸市渡里町835-1
TEL(水戸) 029(227)0511(代)
FAX(水戸) 029(227)0512

県内各神社様、工事拝命先(順不同)

日光東照宮	矢板本幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利権崎八幡宮
宇都宮大前神社	足利人丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
大田原那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
氏利星宮神社	一飯塚稻荷神社



株式会社 小西美術工芸社

〒321-1421 栃木県日光市所野2829-1
〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 三HKMビル3階
TEL 日光(0288)54-1198(代) TEL 東京(03)5765-1481(代)

営業品目

縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襴綿守・各種熊手・守護矢・集印帳

おまわりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡213-7
TEL 0282-62-1010(代表)
FAX 0282-62-2061



〈営業品目〉

- 交通安全御守護
- 開運招福鈴
- 文鎮 金盃
- 各種記念品類
- 胸像・レリーフ・鑄造類

鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

創業160年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所



株式会社

湊

伊勢市神宮会館前(〒516-0025)
TEL 0596-22-2442(代) FAX 0596-28-8445

文化を表現する会社

企画デザインからカラー印刷、製本まで

株式会社 益子印刷

栃木県芳賀郡益子町益子1709-6

TEL.0285-72-3131

FAX.0285-72-6868

編集後記

多くの賛助会員の皆様、広告協賛を賜りました企業様、諸先輩方、会員各位の一方ならぬお力添えのお蔭をもちまして、ここに「会報むすび 第四十三号」が無事に発行出来ましたことを、心より感謝申し上げます。

さて、天皇陛下におかせられましたは、一昨年成立した皇室典範特例法に基づき、此の春、御譲位あそばされ、皇太子殿下が第百二十六代天皇の御位にお即きになられます。

古式ゆかしく皇位継承の儀式が厳肅に執り行われますことを、皇室を戴く国民の一人として誠に有難く存じます。

昨年の天皇としての最後の誕生日の折、我が国を始め世界の平和と国民の安寧を永きに亘り、お心を砕かれてこられた陛下のお言葉やその御姿をテレビの映像を通して拝することが出来ました。今日まで、我々国民に深く寄り添われておられるその思召に触れ、唯々有り難く、胸の詰まる思いを致しました。

つきましては、今上陛下の御代を奉祝し、新帝陛下の御即位を国民こそぞつてお祝い申し上げるべく、我々青年神職は先ず、より一層の自己研鑽に励み、奉務神社毎に氏子への教化を更に進め、麗しい国体の継承に寄与すべく、力を尽くして参ります。

尚、当会は、田邊会長以下新体制の下、斯界発展の為に諸事業に励んで参ります。今後とも変わらぬ御指導と御鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます、結びと致します。

(大前神社 柳田晋作)

広報・事業委員会

委員長 黒川 寧子

副委員長 黒本 裕子

副委員長 越口 政典

委員 柳田 晋作

板垣 喜充

黒川 裕正

津田 亮

増淵 元

中田 明

高橋林之介

和氣 裕美

栗原 義宜

半田 誠也

矢部 貴也

岡村 洋佑

田邊 雅祥

岩松 史恵

顧問
間

栃木県青年神職むすび会 頒布品

くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分(約3m)に裁断し、高級感ある桐箱に納めました。中の帯は、縦に二つ折にし、巻き納めてあります。(解説書在中)注文からお届けまで、お時間をいただく場合があります。納期に余裕をもって、ご注文ください。



着帯のお祝い(安産祈願)

腹帯(岩田帯)

頒布価格(1箱) **1,000円** (送料別)

ご注文
問い合わせ

〒321-3324 栃木県芳賀郡芳賀町西水沼1723 (天満宮内)

栃木県青年神職むすび会

事業・親睦委員会 委員長 越口政典 宛

【ご注文はFAXにて受付致します】

FAX.028-678-1170

TEL.028-678-1138

